

北九州空港の滑走路延長の早期実現について

要 望 書

令和5年2月

福岡県	福岡県議会
北九州市	北九州市議会
苅田町	苅田町議会

北九州空港の滑走路延長の早期実現について

福岡県・北九州市・苅田町では、北九州空港が24時間利用可能な海上空港という強みを活かして、航空貨物便の更なる誘致を進め、貨物拠点空港として発展していくことを目指しています。

北九州空港を貨物拠点空港として更に発展させていくためには、大型貨物専用機の長距離運航が可能となる滑走路の3,000mへの延長が不可欠であり、国の御尽力を持ちまして、令和2年度から滑走路の延長に向けた調査を進めていただいているところです。

令和3年度に終了したP I (パブリック・インボルブメント)においては、福岡県、北九州市、苅田町が国と連携して、住民等への滑走路延長計画に係る情報提供と意見募集に取組み、寄せられた意見のうち、約98%の方々から計画内容についての理解を得ることができました。また、約75%の方々から計画に対して賛意を持つことが判り、滑走路延長に向けた地域の期待の大きさを認識したところです。

令和2年度に開始された環境アセスメントについては、昨年11月、国へ「準備書」に対する福岡県知事意見を提出いたしました。国においては、早速、翌月から「評価書」の作成に着手され、環境アセスメントの手続きの終了に向けて迅速に進めていただいております。

福岡県・北九州市・苅田町は、北九州空港の貨物拠点化に向けて密に連携し、貨物定期便の誘致や集貨促進に取り組んでまいりました。

その結果、大韓航空の就航・増便などが実現し、これと相まって国際貨物取扱量は4年連続で過去最高を記録しております。更なる需要拡大に対応するため、昨年9月には新たな国際貨物上屋を整備したところです。

今月20日からは、世界的インテグレーターであるUPSが就航し、更に、来年4月からは、ヤマトグループとJALグループ共同による貨物定期便が就航します。これにより、新たな物流ネットワークが構築され、九州全域の地域経済の活性化に資することが期待されます。

また、海と空の輸送を組み合わせたシーアンドエアにより、フランスや米国から北九州空港に空輸された人工衛星を種子島へ船で輸送するなど、海

上空港ならではの特色を活かした取組にも力を入れ、実績を重ねております。

北九州空港の背後圏である九州・西中国地域は、自動車・半導体など、日本経済を支える基幹産業が集積し、ここで生産された製品は世界中に輸出されています。更に、TSMCの熊本への進出により、北部九州をはじめ、背後圏における半導体関連の投資・生産が一段と活発化し、貨物輸送量の益々の増加が見込まれます。

これらの国際貨物の多くを、遠方の空港ではなく北九州空港から直接輸出できるようになれば、輸送時間の短縮や経費削減、環境負荷の軽減などの効果により、地域の競争力の強化につながります。

今後も、九州・西中国地域の潜在的需要を確実に捉え、より一層の貨物取扱量増加や路線維持・拡大につながるよう、福岡県・北九州市・苅田町が連携して取組を強化してまいります。

つきましては、次の事項について格別の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

大型貨物専用機の長距離運航が可能となる滑走路延長(3,000m化)の早期の新規事業採択及び必要な予算の確保

(2,500mの現滑走路を3,000mに延長)

